



国際情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第19号

〒950-2292 新潟市みずぎ野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuis.ac.jp URL <http://www.nuis.ac.jp>

入学おめでとう



告 辞



新潟国際情報大学長
武藤 輝一

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。
本日ここに入学式を挙行するにあたり、新潟国際情報大学の役員、教職員一同を代表し、心からお祝い申し上げます。

この度の入学は皆さん自身にとつての喜びであることは申すまでもありませんが、本日ご列席下さいましたご親族の皆様にとりまして、また多数の元氣澁刺として前途有為の皆さんを迎えることができますわが大学にとりまして大変な喜びであります。

この度、本学に入学を許可された皆さんは、情報文学部百二十五名、情報システム学部百九十名、合わせて三百四十六名であります。

大学の始まりは、十二世紀後半にできたイタリアのボローニャ大学や十三世紀初頭にできたフランスのパリ大学でありますが、わが国では明治維新後に大学が作られました。

さらに、第二次世界大戦後に改訂された大学教育制度は約半世紀を経て平成三年、大学設置基準の大綱化、即ち、規制緩和が行われました。

本学はこの大綱化の波の中で、二十一世紀を目指して平成六年四月に開学いたしました。

本年三月までに、七四五名の卒業生が社会へと巣立って行きました。

創立十周年を記念する事業も進みつつあり、記念行事が本年六月に開催されます。

本学は日本文化に対する認識と理解を基に、国際的視野を持ち、情報・人文・社会科学の分野で役立つ、意欲ある健全な心を持つ個性豊かな人物を育成することが建学の理念であります。

情報文化学科では外国語の習得と共にわが国の文化と対比しつつ、異文化を理解、認識し、人文・社会科学の立場から社会のために貢献しうる人物を育成することを旨とし、情報システム学科では英語の習得と共にグローバルに広く構築されつつある情報とその

システムの理論と実際を学び、その能力を社会で活用しうる人物を育成することを目指しています。

本学の教員には大学の教育・研究の経験を持つ人、他、企業での卓越した経験を持つ人、日本での大学教育・研究に情熱をもつ国外四カ国出身の人達がおります。

専門教育に力を入れるのは勿論ですが、両学科による基礎・共通科目を通して、優れた人格・識見・判断力を持つ社会人を育てるため、教養教育による人間形成にも力を注いでいます。

本学の意図するところをご理解頂ければ幸いです。

新入生の皆さんの殆どは、高等学校を卒業して間もない人達であります。近年、高等学校の教育や学習においても自主性が強調されていますが、それでも教えられるという立場が強かったのではないのでしょうか。しかし、これからの大学生活では、学生諸君が自ら考え、自ら発言し、自ら行動すること、同時にその結果については自ら責任を持つという自主性、自律性をしっかりと持つて下さい。「人間は本の輩にすぎないが、しかし考える輩である」と言ったパスカルの言葉は人間にこそ与えられた高度の思考能力を称え、励ます名言であります。

人間には、普通と考えられているより遥かに高い潜在的思考能力があるとされています。積極的に思考を続けることにより思考能力は維持されます。思考能力の衰えた脳の組織は磁気共鳴装置で知る事ができますが、平素の自主的な努力により、潜在的思考能力を引き出し、高めることにしましょう。

今日から大学での生活が始まりますが、きつと嬉しい事や楽しい事がたくさんあると思います。

時には悲しい事やうまく行かぬ事もあるでしょう。これは何処にもある事です。皆さんには何にも変え難い若さと何事にも怯まない情熱があります。悲しい事や失敗などは人生の貴重な経験と思つてこれを持ち越え、一日二日を充実した、後日悔いすることのない学生生活となりますよう折念じております。

現在の長引く経済不況の下で、大学卒業生の就職率の低下が云々されております。皆さんの四年間の在学中に、いずれ就職希望調査を行う時が参りますが、その時には、自分は卒業後どんな仕事をしたいのか、どんな職種につきたいのか、自分なりに考えておくことが必要です。在学中にインターンシップで職場経験をすることも判断の資料となります。研究職に限らず高度な専門的職業につくため大学院に進学した先輩もおります。老婆心ながら申し上げましたが、在学中に自分の進むべき方向を見定めておくのは大切な事です。

幸いに二十世紀中に東西の冷戦構造は無くなりましたが、二十一世紀に入つても、地球上で民族間の抗争・地域間の抗争・宗教の違いによる衝突や抗争など絶えることはありません。飢えに苦しむ人達も少なくありません。経済成長の著しい中国や韓国は別として、経済不況や高い失業率に悩む国も少なくありません。わが国も長引く不況下にありますが、先達の努力により、安心して平和の国に住むことができるのは大変幸せなことです。

皆さんが社会人として出発する前の在学中に、自らの人間としていかにあるべきか、社会人としての公共的意識はいかにあるべきか、考えることになるでしょう。

皆さんに期待するところが大きいので、数多くの希望を述べることにりましたが、皆さんが四年の学業を終えて卒業する時には皆さんは素晴らしい社会人へ成長していることでしょう。

昨年の気象予報と反対に寒い冬でしたが、もう、柳桜をこきまぜてと呼ばれる春の季節になりました。新潟は春夏秋冬、季節に富む人情厚きところでもあります。

皆さんが勉学に勤しむと共に、学生生活を謳歌し、心温かく、人間味豊かな青年として成長されることを心から期待し、皆さんを迎える言葉と致します。

平成十五年四月四日

新潟国際情報大学長
武藤輝一

祝 辞



学校法人新潟平成学院
理事長 小澤辰男

本日晴れて入学式を迎えられた皆さん、誠にめでたうございます。

新潟国際情報大学の運営に携わる理事会を代表して、新入生の皆さんに心から歓迎とお祝いを申し上げます。

併せて、ご列席いただきましたご父母の皆さんにお慶びを申し上げます。また、教職員の皆さま、在学生諸兄姉には本学に新しく仲間入りした新入生の皆さんを温かく迎えていただくと同時に適切な指導やアドバイスを賜りますようお願い申し上げます。

本学は今年、開学十年目を迎え、大きな節目の年で

あります。大学創設に向けての準備財団設立以来、理事長の職にあります私にとりましても感慨深いものがあります。環日本海の時代、新潟はロシア、中国、韓国など対岸諸国と空路、海路で結ばれ、長い交流の歴史を持つております。そうした新潟の特性を生かした大学を新たに作り、若い人たちに学んでほしい。こうした思いに、当時の新潟市長、県知事はじめ各界各層の地域社会の方々のご支援とご理解を示していただき、無事、開学できました。

六月八日には、開学十周年の記念式典を開催いたします。実際に役立つ英語の習得に加え、ロシア、中国、韓国などの言葉や文化を学べ、理系・文系の枠を外し、コンピュータネットワークを通じて新しい情報活用方法を身につけられる大学。国際情報大学の名前がそのまますし示しているように本学は「国際化に生き、情報化を生かす」人材育成を目指して努力して参りました。十周年に合わせて情報センター棟増築に加え、信濃川の万代橋にほど近い旧新潟中央銀行跡地には市街地キャンパスが開校します。情報センター棟には国際センターを設け、中国、韓国、ロシア、アメリカ、カナダの提携大学を軸とした留学制度の資料展示も充実させますし、市街地キャンパスではより情報の集まる市街地での立地を生かして国際交流や高速ブロードバンド対応の教育研究をはじめとした新たな展開も用意します。その意味では本日入学された皆さんとともに新潟国際情報大学は今後十年、二十年に向けて新たな出発をすると言っているように思います。

若い新入生の皆さんには洋々たる将来があります。しかしそれは前途洋々たる可能性を十分に持っているということでも確実な約束ではありません。皆さんが今日この大学に入ることが出来たのも皆さんを育ててくれた郷土と皆さんのご父母・家庭のおかげと思えます。そうした方々のためにも皆さん自身が将来の可能性を自らの努力で切り開き、それぞれの目標や夢を実現していくことがほしいと思います。

いま、日本社会は極めて厳しい環境にあります。構造的な不況、雇用不安、明るい材料を見つづけるのが難しい状況です。国際的にはイラク攻撃が現実のものとなり、北朝鮮をめぐる緊張も続いています。ただそうした状況であればあるほど次代を担う皆さんたち若い世代の力が大切になります。どうぞ、これからの四年間、先生方の懐に飛び込んで専門的知識を学び、大いに議論もして自らを磨いていただきたいと思えます。改めて皆さんのご入学を歓迎し、前途洋々たる未来に幸あれとお祈り申し上げて祝辞と致します。

平成十五年四月四日

学校法人新潟平成学院 理事長 小澤辰男

わたしの抱負

本日は、私達新入生の為にこのような素晴らしい入学式を挙げていただき、また心のこもったお言葉をいただきありがとうございます。

昨年は北朝鮮による拉致問題や、昨年にアメリカで起こった同時多発テロ事件に関連する様々なニュースが、世間を騒がせました。そして先月の末にはついにアメリカがイラクに対して空爆を開始し、今なお争いは続いています。このような出口の見えない不安な出来事が多いこの時代に求められているものは、あらゆる事柄における世界規模での国際的な進化ではないでしょうか。

また、ますます悪化していく環境問題、見えない悪質な犯罪が増加している一丁問題、高齢化にもなう福祉の対応の遅れ、一向に回復の兆しを見せない経済不況など、多くの問題はまだまだ対処しきれいていません。これらの目を覆いたくなるような様々な問題から逃げることなく、柔軟に対応できる国際人こそが、国際的な進化を可能にするのではないのでしょうか。そのような国際人になれるよう各々が自分の目標達成、学業の向上、人間形成に励み、本学の四年間が私達にとって意義深いものになるようにしっかりと頑張っていきたいと思っています。

最後に、本学で学んでいくにあたって、本学の理念を尊重し、未知に包まれているこの時代の未来に向かっていく中で自分のあらゆる可能性を見出し、これからの社会に貢献できるよう惜しまず努力することを誓い、私の入学の抱負とさせていただきます。

平成十五年四月四日

新入生代表 情報文化学部 情報文化学科 本間潤子



歓迎の言葉

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは今日から新潟国際情報大学の学生として新しい生活が始まりました。

大学は中学、高校とは違い、自由なところです。そのかわり、自分の問題は自分自身で解決しなければなりません。

希望や未来を夢見るコトなければ、ただただ時間が過ぎていってしまいます。やるべきコト、やりたいコトを見つけ、夢中になってください。ものごとく夢中になれば、夢中になったぶんだけそれが皆さんの将来につながっていく未来のわっかになると私は確信しています。

ボクシングジムの鴨川会長はこう言いました。

「努力した人間が全て報われるとは限らない。しかし、成功した人間は皆すべからず努力している。」

また、ある有名な料理人はこう言いました。

「多くの失敗は、ひとつの完全な料理のために支払わずかな代価である。大胆に混ぜ合わせ、盛り付けなさい。恐れは失敗以外の何物も生み出さないだろう。」

これらの言葉が皆さんの心の片隅に残れば幸いです。これからいろいろなコトがあると思いますが、自分ひとりで抱え込まず、ともに頑張りましょう。

最後に、本学、新潟国際情報大学へようこそ！

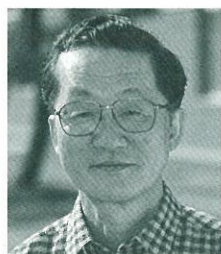
平成十五年四月四日

在校生代表 情報文化学部 情報文化学科 倉島 崇



気軽に相談を

学習指導委員長 原口武彦



昨年度に引き続き本年度も老骨ムチ打って学習指導委員長をつとめます。そして学習指導の実務は、これも昨年度と同じく情報文化学科は小林、熊谷、長坂の三教員、情報システム学科は樋口、大山、小宮山の三教員が学習指導委員として、それぞれの学科を分担します。

事務局の学務課と協力して学生のみなさんの学業面にかかわる諸問題に対処し、学生のみなさんの学業生活を円滑にかつより充実したものにしようために活動しているのが学習指導委員会です。

この委員会が対処しなければならない重要な問題の二つに学生の退学があります。在学中に何か新たな自分の進むべき道を発見していわゆる進路変更を理由とする退学の場合には「では、新しい道でがんばってください」と肩をたたいて送り出せるのですが、私たちが悩まされるのは、「勉学意欲の喪失」による退学です。

これには主に二つのパターンがあるようです。その第1は、本学での新生活の入口でのつまづきです。相互に見知らぬ新入生の中から、新たな友人を見つけ出し、お互いに助け合いながら大学生活になじんでいく、その過程でとりのこされてしまったと感じる学生が、毎年、若干名ながら発生しています。学習指導委員会としては、各ゼミの担当教員と協力して、この入口の脱落を防ぐために、学生との接触をよりきめこまかく行うことに心がけていますが、新入生のみなさんの側も遠慮せず相談をもちかけてください。一見、コワモテの教員や職員も、相談をもちかけてみると親身になって対応してくれます。

第二の関門は、三年次末にやってきます。卒業研究の着手の条件として課せられている二〇〇単位以上の取得です。三年次終了時に二〇〇単位以上を取得していない学生は、自動的に短かくとも半年の留年が確定してしまいます。卒業要件の二二六単位

については、卒業年次に「再試験」という救済措置が設けられていますが、卒業研究着手要件の二〇〇単位についてはそのような救済措置はなく、その点では卒業そのものよりきびしいハードルです。

本学の場合、他学にくらべて少ないようですが、それでもたとえば昨年度、取得単位数が二〇〇単位に達せず留年が確定してしまった学生が、新四年次生だけで情報文化学科十名、情報システム学科十七、計二十八名もいました。不足単位数がわずか六単位以下という学生が六名もいたことを聞かされると、学習指導委員としても切齒扼腕です。そして留年確定を契機に、退学を申し出た学生が昨年度も四名でした。

勉学意欲を喪失したということは、取得単位の不足で結果的には実証されています。また、喪失した意欲をとりもどすことは、本人にとっても指導する教員にとっても至難の業です。事実、退学を決定し申し出た時点で、学習指導委員が面談し再考を促しても、その結果、学生が翻意した例はごくわずかです。

勉学意欲喪失だけを理由に本学を去って行く若者の後姿を見送ることは、なんとも淋しいかぎりです。大学だけが人生ではないんだから……という励ましのことはもうウツロです。

学生が勉学意欲を失ってしまったてからでは「時すでに遅し」です。そうなる前に、何とかしなければなりません。

そこで新入生のみなさんにまず要望したいことは、勉学意欲の喪失に象徴される学業面で直面した問題を、自分だけの問題として抱えこまないでほしいということです。あなたと同じように感じ悩んでいる学友もいるはずだし、また教員の側が見落している問題もあるかもしれないのですから。ちょっと勇気をもって語りかけてみてください。



NUIS

新入生特集

アンケート

4月から新しく仲間入りした8人の新入生に、NUISの印象や抱負を語ってもらいました。アンケート内容は以下のとおりです。



Questionnaire

- ①NUISを選んだ理由 ③これからの抱負
②NUISの印象 ④ひとこと

情報文化学科



なまえ 石坂祐洋

出身校 新潟県立小千谷高校

- ①国際化やコンピュータなど、これからの人生で必要なことが学べるから。
②小さいけど施設が充実していて、どれもキレイなので気持ちよく勉強ができそう。
③大学4年間はあっという間にすぎてしまうと思うので悔いを残さないよう頑張りたい。

情報文化学科



なまえ 今成 愛

出身校 新潟県立新潟中央高校

- ①コンピュータを使えるようになったかったし、家から通えるところだったから。
②建物がピンクで大きくてキレイで設備もイイ☆
③勉強とバイトと遊びをうまくやって、4年間楽しく過ごしたいです。
④まだよく分かんないけど、毎日楽しみです!

情報文化学科



なまえ 坂上秀憲

出身校 新潟県立三条高校

- ①コンピュータを使えるようになるとともに環境問題について学びたかったから。
②設備が充実している。
③色々なことを学び、習得していきたい。
④何もかも高校生の時とは違う。不安もあるが、早く新しい生活に慣れて、大学生活を満喫したい。

情報システム学科



なまえ 瀬戸健吾

出身校 石川県立富来高校

- ①コンピュータの設備が充実してると思ったから。
②すごくキレイだと思ったし、なんか雰囲気がいい感じだと思う。
③一人暮らしをしていますが、勉強とバイトを両立させたいです。
④大学の回りは店が全然ないから、一人暮らしには辛い。すごく野菜が食べたくなくなります。

情報システム学科



なまえ 田沢弥奈

出身校 新潟県立新潟南高校

- ①コンピュータについて学べるから。
②建物が新しくてきれい。
③将来の夢に近づけるように努力したい。
④知ってる人が少ないところからのスタートで不安も多いですが楽しい大学生活を送りたいです。

情報文化学科



なまえ 松山恭子

出身校 新潟県立新潟江南高校

- ①将来国際的な人になりたいから。
②建物がとてもきれい。
③自分の目標に向かってがんばりたい。
④楽しい大学生活を送りたい。

情報システム学科



なまえ 星野一樹

出身校 新潟県立新潟田高校

- ①大学にただならぬ熱いモノを感じたから。
②設備が行き届いており、講師の先生方からも生徒に対する熱心さが伝わってきた。
③コンピュータを利用した情報処理技術やコミュニケーション能力の向上。
④バラ色のキャンパスライフ目指して頑張ります。

情報システム学科



なまえ 渡辺美希

出身校 私立北越高校

- ①いろんな分野を幅広く学べるから。
②コンピュータの設備がすごい。
③外国の方と話せるようになりたい。留学めざしてがんばって勉強したいです。
④ステキなキャンパスライフを送る。

新任教員紹介

グレッグ・ダン (情報文化学科)

担当科目 CEPインストラクター

経 歴 1986年 University of Tasmania, Australia
Bachelor of Education 卒業
2000年 Macquarie University, Australia
Master of Applied Linguistics 卒業



●学生に向けて一言

My professional interests lie mainly in the areas of pragmatics, language testing and materials development. Currently, I am writing a textbook designed to combat the tendency of students to rely on rote memorization of set texts by instead, fostering the process of beginning with a thought and then developing the linguistic skills to impart it.

私は、主に語用論、語学試験方法、及び語学教材開発に専門的な関心があります。現在、教科書を書いています。この教科書は、丸暗記によらず、まずは考え、次にその考えを伝達する言語的スキルを学ぶという手順を習得させることによって、丸暗記に頼りがちな学生の学習方法を変えることを目的にしています。

平田 透 (情報システム学科)

担当科目 マーケティング、商品企画、基礎演習、
情報処理演習、専門演習C

専門分野 マーケティング、ナレッジマネジメント、知的財産戦略



経 歴 北海道大学工学部電気工学科・経済学部経済学科卒業
北陸先端科学技術大学院大学博士課程修了
富山短期大学助教授

●学生に向けて一言

知的好奇心とチャレンジ精神を持って、自分の可能性を広げていってください。ITと語学は、そのための強力な道具になります。

留学制度

本学では情報文化学科・情報システム学科の両学科で言語能力の向上と異文化理解を深めることを目的に留学制度を設けています。留学費用については一部奨学金が与えられます。詳細については説明会で確認して下さい。

情報文化学科

〈アメリカコース〉

ノースウエスト・
ミズリー州立大学

〈韓国コース〉

慶熙大学

〈ロシアコース〉

極東国立総合大学

〈中国コース〉

北京師範大学

情報システム学科

〈北米コース〉

カナダ・
アルバータ州立大学

※4月23日申し込み終了

2003年度情報文化学科派遣留学の申込み締切り迫る!!

情報文化学科では以下のような日程で、派遣留学参加者を募ります。

ロシア・中国・韓国コース

仮申込み：4月25日(金) 午後6時までに学務課に提出してください。
本申込み：5月 9日(金) 午後6時までに学務課に提出してください。
面 接：5月14日(水) 午後2時50分(4限)より。

アメリカコース

2年生はすでに申込みを締切っています。
3・4年生の本申込み：4月28日(月) 午後6時までに学務課に提出してください。

新潟国際情報大学独自の奨学制度(給付)

名 称	対 象	給 付 額	採用人員	名 称	対 象	給 付 額	採用人員
学費特別給付 奨 学 金	全 学 年	授業料全額	新規採用枠 5名	資格取得奨励 奨 学 金	全 学 年	I 種 5万円	I 種 10名
		授業料 2分の1	10名			II 種 2万円	II 種 50名
表 彰 奨 学 金	2～4年生	10万円	学業成績優秀者 各学年・各学科 1名	学費臨時給付 奨 学 金	全 学 年	授業料・施設 設備費の 当該期分全額	前期・後期若干名
			課外活動功労者 5名			同上 当該期分の 2分の1	前期・後期若干名
海外派遣留学・ 海外研修奨学金	2 年 生	15万円～ 20万円	100名	学費奨学融資制度 奨 学 金	3・4年生	借入利息 相当額	制度利用者全員

◎詳細については事務局までお問い合わせください。

進路について考えてみませんか？

高校生のための

NUIS 進路ガイダンス

開催日 平成15年5月24日(土) 11:10~15:25
会場 本学

スケジュール

10:45~11:10	受付
11:00~12:00	「進路について考えよう」 講演 進研「ビトウィーンMYナビ」 編集長 関 一憲 氏
12:00~12:45	昼食 昼食は学食にてご試食ください。(無料)
12:45~14:00	「大学ってどんなところ？」パネルディスカッション パネリスト 新潟県教育庁 高等学校教育課 指導主事 鷺尾 雄慈 氏 大学等進学推進班 進路指導部長 石田 光憲 氏 東京学館新潟高等学校 取締役新潟店長 岩井 幹雄 氏 株式会社 名古屋三越 編集長 関 一憲 氏 ビトウィーンMYナビ 編集長 市岡 政夫 氏 新潟国際情報大学 学生部長
14:05~14:20	入試結果速報報告
14:25~15:25	「大学の魅力!!」本学学生によるパネルディスカッション

各イベントの
申込み方法高校の進路指導の先生もしくは、
下記にお申込み下さい。

お問い合わせ先

新潟国際情報大学
広報係〒950-2292
新潟市みずき野3-1-1
TEL 025-239-3111
FAX 025-239-3690
E-Mail soudan@nuis.ac.jp

OPEN CAMPUS

オープンキャンパス

■平成15年7月26日(土)、10月4日(土)
10:00~15:30

■CONTENTS

- 学部・学科紹介
- 入試問題の傾向と対策
- コンピュータ実習
- 入試個別相談
- 就職相談
- 入試情報説明
- 模擬講義
- カリキュラム、履修説明
- 海外留学相談
- 在学生による何でも相談

※昼食は学生食堂にて無料提供します。ぜひご試食ください!

大学ではどんなことを学ぶの?NUISの特色ある講義を体験しよう!

～国際化・情報化を体感～

NUIS-LIVE

■平成15年8月21日(木) 10:00~16:00

情報システム学科、情報文化学科、両学科共通の講義を開講します。

他にもあるよ!

平成16年度 入学者選抜試験日程

◎詳細は募集要項でご確認下さい。

入試区分		募集人員		出願期間	試験日	合格発表日
推薦入試	高校長推薦 指定校制	情報文化学科 10 情報システム学科 20	30	15.11.1(土)~ 11.10(月)	15.11.16(日)	15.11.20(木)
	高校長推薦 公募制	情報文化学科 30 情報システム学科 35	65			
	高校長推薦 スポーツ	情報文化学科 情報システム学科	若干名			
	社会人特別選抜	情報文化学科 情報システム学科	若干名			
一般入試	前期	情報文化学科 35 情報システム学科 60	95	16.1.6(火)~1.22(木)	16.2.2(月)	16.2.6(金)
		情報文化学科 15 情報システム学科 20	35	16.2.5(木)~2.13(金)	16.2.24(火)	16.2.24(火)
	後期	情報文化学科 10 情報システム学科 15	25	16.2.20(金)~3.2(火)	16.3.8(月)	16.3.12(金)

●入試に関する問い合わせ先

新潟国際情報大学学務課教務係 〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 電話(025)239-3111 FAX(025)239-3690



記念講演会

開催日 平成15年6月6日(金)
 講師 アグネス・チャン
 演題 みんな地球に生きるひと
 開場 18:15/講演 19:00
 会場 朱鷺メッセ 国際会議場
 定員 500名入場無料
 (先着で定員になり次第メ切り)



応募方法

往復はがきに

住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上
 〒950-2292 新潟市みずき野3-1-1
 「新潟国際情報大学 記念講演会」係迄

学術シンポジウム

テーマ:国際化・情報化と大学の社会的役割

日時:2003年6月7日(土) 9:00開場

開場:朱鷺メッセ

●主 旨 学術シンポジウムの開催にあたって

120年も前に福沢諭吉は「民情一新」で、「交通・通信革命」による社会の激変を論じ、経済環境の転換も政治的民主化も不可逆の大勢となる当時の状況を語った。それに比べ、今日のIT革命に伴うグローバル化は更に同日の論ではない。情報化はもちろん、国境を超えた経済活動や人的交流を大いに促進してきた。グローバル化につれて様々な問題も発生しているが、政治・経済・環境などの面における国際協力も展開されつつある。本シンポジウムは、こうした時代における大学の役割について考える。この主題に関する基調講演を行い、それをふまえて、下記的主旨で二つの分科会を行う予定である。 区 建英(情報文化学科 教授)

●セッションⅠ 新世紀アジア太平洋「共生」の条件

アジア太平洋、とくに広い意味での「東アジア」の問題に焦点を当て、グローバル化時代の中長期的な平和構築の可能性について多角的な議論を展開したい。そのためには、まずこの地域で「共生」を阻んできた歴史的・政治的諸問題を整理する必要がある。第一に、歴史認識の問題、第二に、国際政治経済の構造的諸問題を明らかにし、それらをふまえた上で、新世紀には一体どのような地域協力の可能性や展望があるのかについて、ともに考えてみたい。

発題者・パネリストは、アメリカ、中国、ロシア、韓国、日本各地域出身の多様な分野にわたる研究者で構成されるが、それによって新たな平和構想のための多様な視点による創造的な対話が期待できるだろう。本シンポジウムは、同じ問題を共有する「東アジア」における国境をこえた「大学文化圏」の形成に向けた第一歩であるといえる。

コーディネーター:佐々木 寛(情報文化学科 助教授)

●セッションⅡ 電子自治体の展望と大学の役割

IT最先端国家を目指して策定されたe-Japan戦略では、超高速ネットワーク インフラ整備および競争政策、電子商取引ルールと新たな環境整備、電子政府の実現、人材育成の強化という4つを重点政策分野として取り上げている。電子政府・電子自治体の実現については、未だ緒についたばかりであり、産学官民が一体となって進める必要がある。そこで、電子政府・電子自治体の実現へ向けての大学の役割を探るとともに、具体的な地域貢献として、大学が主体となって設立・運営を目指す地域総合ITセンターへの道筋について、専門的な見地から議論し意見を集約する。

特別講演で地域づくりとITについて問題を提起し、専門発表では海外の状況と電子社会の理念の再整理を行い、その上で、産官民から大学への期待をめぐって、パネルディスカッションを展開する。

コーディネーター:山口直人(情報システム学科 助教授)

定員 500名入場無料

(先着で定員になり次第メ切り)

応募方法

はがき又はfax にて住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上
 〒950-2292 新潟市みずき野3-1-1
 「新潟国際情報大学 学術シンポジウム」係迄
 ご応募下さい。

- | | | |
|-------------|---------------------------------------|--|
| 9:30~12:00 | 第1部 | 学術講演会(於 国際会議室) 司会:区建英 |
| | 開会挨拶 | 武藤輝一(本学学長) |
| | 基調講演 | 非霸権的サイバー空間の構築:
アジア太平洋「共生」の条件として
武者小路公秀(中部大学教授) |
| | 特別講演Ⅰ | グローバル化とアジア太平洋の「共生」
ブライアン・J・ヘッス
(アメリカ・ノースウェスト・ミズーリ州立大学政治学助教授) |
| | 特別講演Ⅱ | 情報化の進展と都市デザイン
ピーター・ドロージェ
(オーストラリア・シドニー大学建築学部長) |
| 13:30~17:30 | 第2部 | シンポジウム |
| | セッションⅠ(於 中会議室) | 司会:佐々木寛 |
| | テーマ: | 新世紀アジア太平洋「共生」の条件 |
| 13:35~15:35 | 専門発表 | |
| | ①東アジアの歴史認識問題 | |
| | 梅雪芹(中国・北京師範大学歴史学部副学部長) | |
| | ②東アジアの国際問題 | |
| | ウラジーミル・アントーノフ
(ロシア・極東大学付属国際関係学長) | |
| | ③東アジアの地域協力 | |
| | 安栄洙(韓国・慶熙大学国際教育院長) | |
| 15:50~16:50 | パネルディスカッション | |
| | コメンテーター:芳井研一(新潟大学教授) | |
| | 松本ますみ(敬和学園大学助教授) | |
| | 広瀬貞三(本学教授)、高橋正樹(本学助教授) | |
| 16:50~17:30 | 質疑応答 | |
| | セッションⅡ(於 国際会議室) | 司会:山口直人 |
| | テーマ: | 電子自治体の展望と大学の役割 |
| 13:35~15:35 | 専門発表 | |
| | ①カナダにおける電子政府の現状と課題 | |
| | エドワード・ルサージ
(カナダ・アルバータ大学政府研究学部副学部長) | |
| | ②電子社会のパラダイムシフト | |
| | 國領二郎(慶応義塾大学環境情報学部教授) | |
| 15:50~17:30 | パネルディスカッション | |
| | 官(行政)から大学への期待 | |
| | 中野雅至(新潟県庁情報政策課長) | |
| | 産(企業)から大学への期待 | |
| | 河内康志(北陸電機株式会社 代表取締役社長) | |
| | 民(市民)から大学への期待 | |
| | 吉岡和彦(新潟日報社メディア情報センター) | |
| | 学(大学)の代表として 高木義和(本学教授) | |
| | 質疑応答 | |



本年度、10年目という節目の年を迎え、更なる教育環境の整備、教育・研究活動の充実を図るために、様々な取り組みを行っています。

新潟中央キャンパス

新潟市上大川前七番町に整備を進めている新キャンパスの名称が「新潟中央キャンパス」に決定。本年6月8日(日)に開校します。

21世紀を迎え、社会の急激な変化や大学に求められているニーズに対応するために設置するもので、大学全体の活性化に役立てていきます。

主に、4年次生の卒業研究等の授業が行われる予定です。国際化・情報化の教育・研究活動がさらに充実したものと同時に、就職活動等の拠点としての利用が期待されます。



情報センター棟増築

情報センターの増築部分は2階建て、1階部分は情報閲覧室(図書館)の増築、2階部分は新設の国際センター(仮称)で、本年度後期から開放の予定です。今まで以上に、使いやすく、充実した教育施設として生まれ変わります。



学生ホール出入り口増築

4月1日(火)に完成しました。



北側校門

越後赤塚駅からの通学者のために校門を整備しています。歩行者、自転車用の出入り口及び緑地帯を整備中。5月末完成予定です。



体育館棟、クラブハウス棟改修工事

5月20日終了予定となっています。

校歌・キャラクター

本校の校歌・キャラクターが6月8日(日)の10周年記念式典で発表されます。これは、公募いただいた作品の中から選出されました。お楽しみに。

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

若者、ヨソ者、バカ者

広報委員 高橋 正樹

本号では、新入生特集を組むとともに、本学園10周年記念行事についてお知らせします。本学園が新潟の地域社会の期待を受けて開学してもう十年が経ちます。新潟に国際化と情報化に対応する新しい大学を創るぞと言われてやって来た者のひとりとして、その期待に応えることができたのかと改めて責任を感じています。

本学園には、新潟の活性化の一助になることが期待されていたと思います。大学を創ることによって、地元での大学進学を容易にし、若年人口の県外への流失を食い止めることに止まらず、もっと積極的な意味で人材育成による新潟の活性化と再生が期待されたものだったと思います。今日、イラク戦争にみられるように国際政治構造は流動化し、グローバルゼーションによる国境を越えたヒト、モノ、カネ、情報の移動が進行しています。新潟経済も農業や製造業を中心にした産業構造が急速に変化しています。他方、アジア地域との層の友好関係が重要さを増しています。そして、情報化の進展には目を見張るものがあります。新潟の新たな活性化には、この激しい変化に対応しあっている先人的人材が不可欠であり、本学園には、まさに国際化と情報化という観点から、その人材を新潟の地で育成したいという願いが込められていたと伺っております。この変化に対応するには、大きな発想の転換が必要になります。橋大学教授の関さんが秋田県立大学開学の取り組みを紹介して、あるところでおっしゃっていたのが、地域活性化のためには「若者、ヨソ者、バカ者」の活躍が基本だそうです。確かに、ある社会を活性化し再生するためには、それまでの常識なり前例が通用しないという意味での「バカ者」のエネルギーが必要になります。そして、バカ者は往々にして、「いままでの」この「常識が通用しない若者」でありヨソ者です。この若者、ヨソ者、バカ者が居心地良ければ、その地域社会は活性化と再生が容易になるでしょう。幸い、新潟には、良い意味でのバカ者が活躍できる土壌があると感じています。その意味では、おこがましいようですが、新潟におけるバカ者の役割を演じて、国際化と情報化に則した教育を通じて、地域社会の活性化に貢献することが本学の使命かもしれません。小紙は今後も、この新潟国際情報大学のエネルギーをお伝えしていきたいと思っています。